山梨県山梨市

1　研究テーマ及び研究の観点

⑴　研究テーマ

道徳性の芽生えを培う環境づくりをめざして，異年齢とのかかわりの中で道徳性の芽生えをはぐくむ。

⑵　研究の観点

本調査研究では，幼児期において多様な人，自然，ものに触れる機会として，幼稚園を中心に園内外での自然体験や交流体験等の豊かな体験活動を年間計画の中に設定し，異年齢とのかかわりを通して道徳性の芽生えをはぐくむ実践的調査研究を行う。また，幼児理解の在り方や教師のかかわり方を研究するため，保育実践を記録，分析し，道徳性の芽生えを培う視点から日々の保育の見直しを行う。

2　地域の概要

協力幼稚園である山梨市立つつじ幼稚園は，山梨市のほぼ中央に位置し，山梨市立加納岩小学校と山梨県立山梨高等学校が隣接しており，学園地区として教育的関心がとても高い地域である。隣接する加納岩小学校とは，本市が推進する幼保小連携教育のモデル校に指定し，園児と小学生との交流が盛んに行われている。

3　研究協力機関

山梨市立つつじ幼稚園　山梨市立加納岩小学校

4　研究の内容及び方法

⑴　道徳性の芽生えを培うための事例研究と取り組みの実施

①　研究園における年間指導計画・月間指導計画の作成及び観察記録の作成

幼稚園生活のさまざまな場で繰り広げられる出来事に，道徳的価値を見いだし，子どもたちがよりよく生きようとしている姿に働きかけていくことが必要である。

本研究において，３歳児から５歳児のそれぞれの発達段階に応じて，教育目標を設定し年間指導計画を作成，また，月間指導計画ではより具体的な取り組みを作成し，前月にそれを保護者に配布した。それぞれの発達段階に応じた取り組み内容を保護者に周知するとともに，幼稚園と家庭が共に幼児を育てるという意識をもち，家庭との連携を図った。

年間指導計画・月間指導計画をもとに，様々な体験活動等を実施し，道徳性の芽生えを培う観点から園児の日々を観察し記録を行った。観察記録では，環境構成，予想される行動，園児に対する働きかけ，実践と特徴的事例といった区分により記録し，また観察記録を考察することにより教師の働きかけによる園児の変容の把握，また以降の指導体制や保育の在り方について研究を行った。

②　基本的生活習慣を育成するため，家庭と連携した取り組み

幼稚園児の生活は，幼稚園だけで終わるものではなく，家庭との連続性の上に成り立っている。１日の幼稚園での生活の疲れを家庭で癒し，翌日も幼稚園に向かう。こうした規則正しい生活の繰り返しが，生活リズムを整えることにつながる。基本的な生活習慣の獲得は，家庭の理解，家庭との連携なしでは身に付けることはできない。

そこで基本的な生活習慣を幼稚園と家庭との連携の中で獲得するため，次に掲げる項目に重点を置き，基本的生活習慣を育成するため家庭との連携を図った。

ア．家庭に，園での様子を詳しく伝える。また家庭での様子を知らせてもらうなど家庭訪問，連絡帳，学年懇談，個人懇談を通じて情報交換を密にする。

イ．不規則な生活をしていると思われる家庭に連絡をとる。

ウ．生活リズムの大切さについて，園だより等で保護者に伝える。

上記の項目を実践する上での留意点として，保護者の子どもへの思いや考えをまず受け止め，尊重し共感するとともに，子どもの園生活の様子などをきめ細やかに伝えること，そして，保護者から幼稚園に対しての信頼感をもってもらうことが何より大切であると考えた。

③　栽培活動・飼育活動など自然とのふれあいを通じて，生命を尊重する心を育てる。

（栽培活動）

自分たちが育てた野菜や果物を食べることはもちろん，その成長を楽しみに，大根，ジャガイモ等を種まきから始め，栽培活動を行った。自分たちが植

えた栽培物に親しみを持ち，水遣りや草ひきの世話をしながら成長を実感し，収穫の際には喜びを感じることができるような一連の作業を園児たちの手で行った。

収穫は，保護者と園児で一緒に行い，収穫した野菜は親子で食べた。保護者にも育てる喜びを共に感じてもらうことができ，幼稚園と家庭とをつなぐことにもつながった。

（飼育活動）

園児たちが，生き物とのふれあいを通して命の重さを実感し，命と向き合いながら生活していくため，金魚と鈴虫・コオロギの飼育を行った。鈴虫では産卵から命の誕生の喜びを実感し，成虫となった時の鳴き声を楽しみ，園児は命の誕生から成長までかかわった。

④　豊かな体験活動の場を設定し，友だちや未就園児・高齢者，地域など多様な人とのかかわりから身近な大人への信頼・思いやり・他者を尊重する気持ちを養う。

（技能バンク）

様々な人とのかかわり，道徳性の芽生えを培う機会として，園児の保護者や祖父母を対象に，ある技能に優れた人たちの人材バンクを設置した。栽培活動や手芸，工作などの際に講師として招いた。この交流活動により，園児にとって身近な大人たちという安心感の中から自己表現がはじまり，自分とかかわる人たちにいつもあたたかく見守られ，受け止めてもらえるという信頼関係が構築される環境を目指した。

（つつじキッズ）

未就園児をつつじキッズと称し，幼稚園体験や園児との交流を図った。体験活動では教師とつつじキッズ，その保護者で園内の砂場やプール，大型積み木等で「遊び」を体験。また園児との交流では，お誕生日会につつじキッズを招待したり，年長組と一緒に遊戯やカバン作成などの「遊び」を行った。自分より小さなつつじキッズと一緒に「遊び」を体験することにより，人に対する思いやりの気持ちの育成を図った。

⑵　幼児期から児童期への連続性をもった道徳性の芽生えを培う幼小連携の在り方

①　発達や生活の連続性を確保し，小学校教育への滑らかな接続を図るため幼児と児童の交流の在り方を探る。

園児と小学生が積極的にかかわりながら，多様な人々と親しみ，一緒に活動する喜びや友だちとかかわる楽しさを共感することを目的とし，隣接するつつじ幼稚園，光明保育園，加納岩保育園の年長児が加納岩小学校を訪問し，１年生が生活科の授業で木の実から作った「けん玉」等をして楽しく遊んだ。１年生は園児に遊び方を教えるなど，園児にお兄さんお姉さんとして接し，小学生として過ごした半年間の成長を感じさせた。

小学生が園児に学校生活を紹介し，園児の小学校への不安や戸惑いを軽減し，期待をもって就学できるようにする。また，小学生は園児に分かりやすく学校生活を説明し，思いやりをもって接することなどを目的に，つつじ幼稚園を卒園した加納岩小学校２年生のグループが幼稚園を訪問し，縄跳びや鬼ごっこをして遊んだり，学校の行事を紹介する紙芝居をしたり，校歌を歌ったりして交流した。園児は，小学校生活の一端にふれて「楽しいことがある小学校」「やさしい人たちがいる小学校」という親しみや入学への期待感を高め，幼児なりの見通しをもつことができた。

園児は，多くの小学生とふれあい，遊びの幅を広げる。また，小学生は遊びを通して年少者との接し方を工夫しながらかかわることを目的として，毎年行われる加納岩小学校児童会主催の「おおとり祭り」に，つつじ幼稚園の年長児が参加した。小学生が作った「お化け屋敷」等の出店を見たり，「ろうそく作り」「スライム作り」など小学生に教えてもらいながら，一緒に楽しく遊んだ。園児は，あたたかい雰囲気の中で，積極的にかかわり合い児童とのつながりをより深めた。

②　幼稚園で培った道徳性の芽生えがどのように小学校へ受け継がれたらよいのか教師同士が話し合い，それぞれの発達段階にある子どもたちの特徴とその指導の特質を互いに話し合う。

平成18年度に本市では，幼稚園・保育園と小学校の異なる「学び」の場にある段差と，スムーズな接続の在り方について，研究推進を図る幼保小連携推進連絡会議を設置した。そのモデル校であるつつじ幼稚園と加納岩小学校では，道徳性の芽生えを培う観点からも教師同士が話し合い，幼保小連携の在り方についての工夫改善を図った。

⑶　研究会および講演会の開催，先進地の視察

①　教員の指導力の向上を図るため，研究会や講演会の開催

月間指導計画の作成や実践研究に取り組む際に道徳性の芽生えを培う観点から，それぞれの発達の段階に対応した指導方法などについて打ち合わせをし

た。

また外部講師を招き，指導や援助の方法，実践記録の方法などについて研究を行った。

「共に育つ　課題を踏まえた幼稚園教育」の研究を取り組んでいる静岡大学教育学部附属幼稚園の視察研修を実施し，研究成果の発表，また，その実践について視察研修を行った。

⑷　「こころの絵本」制作

①　研究実践事例を通して，道徳性の芽生えにかかわるエピソードをイラスト化した「こころの絵本」の作成

幼稚園生活における子どもたちの姿から，道徳性の芽生えにつながる場面を記録し，その園児の観察記録等から，山梨市幼稚園教育研究推進会議委員のそれぞれの専門的な分野から見た道徳的なエピソードを抽出した。絵本の原画作成にあたっては，研究推進会議委員で童画家でもある杉田幸子氏に依頼し制作した。

②「こころの絵本」を市内幼稚園と保育園に配布

幼児期における道徳性の芽生えについて，幼児と大人が一緒に考える機会とするため「こころの絵本」を研究園であるつつじ幼稚園の全世帯・市内の私立幼稚園と公立・私立保育所に配布し市内の幼児の道徳性の芽生えを培う活動の推進を図った。

5　研究成果及び今後の課題

⑴　研究成果

①　基本的生活習慣の育成では，家庭との連携に重点をおき，幼稚園と保護者とが一体となって取り組むことができた。また，家庭との連携の中から，保護者の幼稚園に対する信頼感や保護者の道徳性の芽生えについての関心が深まった。

②　飼育活動では，園児たちが自ら植えた栽培物に親しみをもち，世話をしながらその成長を実感し，収穫では喜びを感じ，道徳性の芽生えにつながった。また，保護者にも育てる喜びを共に感じてもらうことができ，幼稚園と家庭とをつなぐこともできた。

③　飼育活動では，園生活の中で生き物を身近に感じ，生き物との触れ合いを通して命を実感することができた。また，新しい命が誕生した喜び，日々の世話の中から思いやりの気持ちを育て，そして，死を迎える場面を目のあたりにすることで，「命の重み」についても実感した。

④　体験・交流活動では，身近な大人たちという安心感の中から自己表現がはじまり，自分とかかわる人たちにいつもあたたかく見守られ，受け止めてもらえるという信頼感を感じ，豊かな人間関係を築くことができた。

⑤　小学生との交流活動の中から，一緒に活動する喜びや他者と関わる楽しさを共感することができた。

⑥　幼小連携活動では，児童が園児たちに学校生活や行事を紙芝居で「お話」することで，小学校生活がより身近なものに感じ，親しみを持ち，幼稚園から小学校への「学び」の場が移る不安や戸惑いの解消が図られた。また，教師同士がぞれぞれの授業を参観し，相互理解を図った。

⑦　教師が日々の保育の中で，園児たちへの働きかけや援助方法など，より意図性をもった保育に努めるようになった。

⑧　園児は，身近な出来事を絵本にした「こころの絵本」に親しみをもち，家庭や園生活でのさまざまな場面から，道徳性について自ら考え気づくことが出来るようなった。

⑵　今後の課題

①　少数の教師で，園児一人一人の特質にあった保育を実践していくため，よりきめ細かい指導計画と全教職員による協力体制づくりが必要である。

②　幼稚園という集団の場でできること，家庭との連携によりできることを探り，幼稚園と家庭とが一体となって，幼児を育てていく環境を構築していくことが必要である。

③　幼稚園と小学校との相違と共通性を知り，更に幼稚園から小学校へのカリキュラムの流れや指導方法の開発というカリキュラムレベルでの連携を検討していく必要性がある。

滋賀県東近江市

1　研究テーマ及び研究の観点

『道徳性の芽生えを培う活動の充実をめざして』
～学びあい 見つめあい 交わりあい　愛がいっぱい～

当市では，21世紀の社会を担う，個性と創造性豊かで活力に満ちた東近江の人づくりとして，教育委員会において「人づくりプラン」を策定し，その方針として『自分よし（自己実現），相手よし（思いやり），社会よし（社会貢献）の三方よし』が実行できる子をめざして取り組み，この方針を研究計画の中心におき研究を進めてきた。

昨年度，幼稚園における教育課題に対応した実践的調査研究委託を文部科学省より受けて，本市の23幼稚園の中から3幼稚園が研究協力園となり，『道徳性の芽生えを培う活動の充実をめざして』～学びあい 見つめあい 交わりあい　愛がいっぱい～の統一テーマのもとで研究に取り組んできた。幼児の道徳性や豊かな人間性を培うために，園と家庭と地域が連携し協働した取り組みを計画し，実践を積み重ねた。

『園での様々な体験や遊びを通して学びあうこと』『家庭での温かいかかわりの中で見つめあうこと』『地域とのふれあいの中で交わりあうこと』を追求することで，様々な角度から道徳性の芽生えを培う活動の充実をめざし『子どもと大人の共育ち』につながる手立てとしたいと考え研究を深めることとした。

なお，研究を進めるにあたり，昨年度の研究を土台とし今年度もよりテーマに迫るべく下記の４点を研究推進の仮説とした。

① 様々な遊びや活動を重ねていく中でのいざこざや葛藤，自然や身近な動植物とのかかわりあいなど，心が揺り動かされるような体験を多くもつことで，規範意識の芽生え，思いやりの心，自然や命を大切にする心が培われていくのではないか。

② 保護者とともに幼児の心や体が育つ場を提供し，工夫をすることで，生活習慣を身に付け，自己発揮や自己抑制，自己調整ができる幼児に育つのではないか。

③ 幼児たちが様々な人と出会い，身近な自然と繰り返しかかわる中で，親しみの気持ちをもち人の温かさを感じとるとともに，地域のよさを知ることができるのではないか。

④ 園から道徳性の芽生えを培う取組みを発信し，活動を継続することで，地域とともに子育てをすることができるのではないか。

2　地域の概要

東近江市内公立幼稚園　23園
私立幼稚園　０園
東近江市内公立保育所　12園（内１園休園中）
私立保育所　６園

平成18年に合併した東近江市は，現在12万人近い人口である。新興住宅地と人口減少が著しい地域が存在し，幼児を取り巻く環境も様々である。

幼児教育に対する期待は高いが，保護者の価値観は多様化している。また，保護者が子どもに対して望む規範意識の基準も様々である。子どもに対して，かかわり方が分からない，子育てに不安を感じていながら相談する人が近くにいない等の悩みを抱え込むケースも見られ，親子に手厚い支援が必要な家庭も少なくはない。

3　研究協力機関（研究協力園）

○東近江市立中野幼稚園（東近江市昭和町２番６号）
３歳児60名・４歳児47名・５歳児44名

○東近江市立能登川第一幼稚園（東近江市佐野町379番地）
３歳児65名・４歳児71名・５歳児79名

○東近江市立蒲生幼稚園（東近江市大塚町1149番地）
３歳児111名・４歳児66名・５歳児69名

（平成21年3月1日現在の人数）

4　研究の内容及び方法

⑴　一人一人の園児の実態把握と幼児理解に努める。

○　様々な遊びや生活の中で，心揺さぶる体験内容についての事例研究を行った。葛藤，いざこざなどの場面を丁寧に記録し，子どものつぶやきや動き，友達とかかわる姿から，気付きや言動の奥にある心の動きを探った。

○　幼児の内面を読み取り，個に応じた支援を充実してきた。日々の生活や遊びを掘り下げ，援助することにより，幼児がどのように育ったかを深める事例研究を積み重ねた。

⑵　道徳性の芽生えを培う活動の充実をめざし，環境構成や援助のあり方を探る。

○　楽しい雰囲気づくりや主体的に遊び込める環境構成など，様々な遊びや生活の中での教師の役割について，各園にて講師を招聘し園内研究会を行った。

講師：滋賀文教短期大学講師　向井朝子先生
（中野幼稚園担当）
滋賀文教短期大学講師　成子祐子先生
（能登川第一幼稚園担当）
関西国際大学非常勤講師　河嶋喜矩子先生
（蒲生幼稚園担当）

○「幼稚園でのモデルは先生の人格そのものである」という教師自身の学びの中で，日頃の環境構成や援助のあり方を道徳性の芽生えを培う視点で見直すことで，幼児たちの些細な変化や気付きを大切にした言葉の工夫など，教職員の意識の変容につながった。

○　道徳的視点に立った環境の再構成や援助のあり方の工夫，心揺さぶる体験の充実やじっくりと遊び込める時間や場の保障，また実践を積み重ねながら，ねらいや内容を修正し指導計画の更なる改善に努めてきた。

○　モデルである教職員の意識の変容とともに，行動もしっかりとともなうように教職員自身の自己研鑽に努めた。

○　心豊かな幼児を育成するために，前年度より絵本の環境を見直し整えてきた。読み聞かせの大切さや，絵本を通して心情が豊かになり，好奇心，思考力，想像力及び温かな心を育むことができることを保護者に知らせ，貸し出してきた。今年度も引き続き心の育ちにつながる読書活動の推進を図った。

《絵本の読み聞かせの大切さ》
絵本は大人が子どもに読んであげるもの

1．絵（挿絵）と文化（地文）
絵の世界と言葉の世界を同時に体験しないと本物の絵本体験はできない。子どもは２つの世界（絵と文）を同時には体験できない。読んであげるとできる。

2．絵は静止画
読み手の言葉を聞くことで絵は動いてくる。読んであげないとできない。

3．絆ができる
読み手と聞き手が同時に感動体験（ワクワク・ドキドキ）ができる。読み手の心が子どもの心に伝わり残っていく。誰が読んだかが大切。感情の共有体験によって心の通い合いができる。

⑶　幼稚園と小学校，家庭や地域などの連携を進める中で，道徳性の芽生えに関する意識の啓発の仕方を探る。またその連携のあり方を考える。

○　幼稚園が発信基地となり，保護者と協働しながら，幼児の生活習慣の更なる定着を図った。

・・子どもと大人の共育ち事業として・・
＊保護者による子育てボランティア『むくの木プロジェクト』の立ち上げ（“むくの木”は園のシンボルツリー）
子育てむくの木プロジェクト＝地域の未就園児親子対象に子育て支援をする
散歩むくの木プロジェクト＝散歩の引率・不審者対策と交通指導
ひそかにむくの木プロジェクト＝遊戯室の壁面製作と幼児の遊びに利用できる物を家庭で製作
保護者が活動を通して幼児理解と共に自己肯定感をもち，保護者同士の連帯感も芽生えた。

○　地域の各校園長，主任児童委員，保護者代表等の協力を得ながら，幼児のおかれている状況を更につかんでいくために，調査研究実行委員会を設置し年３回の会議を開催した。

第１回調査研究実行委員会
＜平成20年５月29日（木）＞
第２回調査研究実行委員会
＜平成20年９月30日（火）＞

第３回調査研究実行委員会
＜平成20年11月６日（木）＞
『幼児教育の改善・充実調査研究』研究発表大会への参加協力

○　園内での異年齢交流をはじめ，小中学校や地域の方々との交流など，いろいろな年代の人との触れ合いやかかわりを通して，人と人とのつながりという視点から園の教育活動を見直し，交流活動の実践を重ね，幼児にとって人の温かさやぬくもりが感じられる交流活動を考えた。

○　地域の人・もの・環境のすばらしさを地域ぐるみでより実感できるように，園からの発信を工夫してきた。

地域の良さを知るために親子ウォークラリーを計画し，自然や地域の人々に触れながら親子で出かけた。
（保護者の感想より）
・子どもと一緒に歩くことで，ここが自分達の住んでいる地域だという意識を共有することができた。
・子どもの友だちのお母さんと仲良くなることができた。
・季節を感じながらゆっくり話して歩くことができた。子どもと一緒に自然に目を向け，道端に咲いている小さな花にも感動する心をもち続けたい。
・ボランティアで参加したおじいちゃんが，親子の触れ合いのよさを感じ，後日孫と一緒に弁当を持って公園へ出かけた。

○　幼児期に培った道徳性の芽生えをつなぎ円滑な小学校との連携を図る。

⑷　道徳性の芽生えを培う年間指導計画を見直し，保育に生かす。

○　教育課程の中に位置づけてある年間指導計画を道徳性の視点に立って見直した。

○　発達段階に応じた道徳性の芽生えを培うための発達過程の年間指導計画を実践に生かし，家庭や地域とともに取り組んできた。

5　研究成果及び今後の課題

①　研究成果

○教職員の意識の変容
・一人一人の道徳性の芽生えを見つけるきめ細やかな支援
（子どもたちの些細な変化や気付きを大切にした言葉がけの工夫）
・道徳的視点に立った環境構成や援助のあり方の工夫

○子どもの心の変容
・多様な場面での相手の思いへの気付き
・相手の思いやりや自分の良さへの実感

○保護者の意識の変容
・子育ての説明会への積極的な参加
・きめ細かく子どもにかかわる必要性，子育ての大事さ，喜びへの気付き
・園との協働による子どもの生活習慣の定着への喜び

○園から地域への発信
・園教育へのボランティアの参加人数が増加
・地域とともに子育てを推進する園の体制強化
・地域の人・もの・環境のすばらしさを地域ぐるみで実感

②今後の課題

○保育の充実から子どもの育ちへ
・子どもの内面理解や個に応じた支援の更なる充実
・日々の生活や遊びをより掘り下げ，援助することによる子どもの育ちの研修
・心を揺さぶる体験の積み重ねや，じっくりと遊びこめる時間や場の保障
・日々の生活や遊びの中で子どもの心の気付きの捉えときめ細やかな働きかけ
・道徳的視点に立った環境の再構成や援助のあり方の更なる工夫

○園からの発信
・園の教育活動が，保護者によく見え，地域につながる取組みの更なる改善
・幼児期に培った道徳性の芽生えをつなぐ円滑な小学校との連携

兵庫県芦屋市

1　研究テーマ及び研究の観点

⑴　テーマ　　道徳性の芽生えを培う指導の在り方
⑵　研究の観点　～幼児の規範意識を高めるために～
①よいことや悪いことを判断する力の育成
②思いやりの心の育成
③生命を尊重する心の育成

2　地域の概要

芦屋市の公立幼稚園の歴史は古く，昭和32年から２年保育を実施している。人口約９万人の芦屋市には，公立幼稚園が９園，私立幼稚園が４園，公立保育所が６園，私立保育所が５園ある。公立幼稚園の保護者は，わが子に思いやりや豊かな感受性をもってほしいと願う一方で，早期教育や習い事を多くさせたりしている実態がある。昨年度，保護者にアンケートを実施したところ，保護者が「幼児に道徳性の芽生えを培っていくことは本当に必要である，大切である」と考えていること，また，幼児の道徳性を育てるためには，「保護者の愛情」が何よりも大切で，保護者自身が「幼児の手本となる道徳性」を身に付けていることが重要だという意識をもっていることが明らかになった。

今年度は，「保護者の愛情」とは何かをアンケートで尋ねたところ，３園とも上位に「規則正しい生活」「子どもの話を聞くこと」「愛情を子どもに伝える」ということが挙がった。このような保護者の意識を受け止め，連携を深めていきながら，３幼稚園がそれぞれに研究の視点を設け，共通の講師の下で指導を受けながら，研究を積み重ねた。

3　研究協力機関

幼稚園名	芦屋市立精道幼稚園		
所在地	芦屋市精道町11－10		
年齢(学級数)	４歳児（２）	５歳児（２）	合計（４）
園児数	39	44	83

幼稚園名	芦屋市立西山幼稚園		
所在地	芦屋市西山町22－15		
年齢(学級数)	４歳児（２）	５歳児（２）	合計（４）
園児数	46	52	98

幼稚園名	芦屋市伊勢幼稚園		
所在地	芦屋市伊勢町13－14		
年齢(学級数)	４歳児（２）	５歳児（２）	合計（４）
園児数	49	53	102

4　研究の内容及び方法

①　研究の内容

ア　各園が，「よいことや悪いことを判断する力の育成（精道幼稚園）」「思いやりの心の育成（西山幼稚園）」「生命を尊重する心の育成（伊勢幼稚園）」の具体的観点をもち，道徳性の芽生えを考える切り口にして，保育研究会や実践事例研究に取り組む。

イ　日々の保育の中で，保育記録や幼児同士のかかわりを記録し，幼児の体験の読み取りを分析し，活動の方向付けや望ましい援助の在り方について研究を行う。

ウ　年間を通して，人形劇や，動植物の飼育・栽培活動を指導計画に位置付け，道徳性についての教育課程を作成し，計画的に保育を進める。特に自作教材については，幼児の道徳性の芽生えにつながるよう，幼児の実態や教師の願い等を盛り込んだ内容にし，常に幼児が考え合う場が設定できるようにする。

エ　保護者のアンケート結果を踏まえ，日ごろの保育のなかで，遊びの姿や基本的な生活習慣などの側面から幼児が道徳性の芽生えを培っていく姿について，保護者に伝えるなど連携を図りながら保育を進める。

②　研究の方法

ア　３園共通の講師を継続的に招聘し，研究保育を通して，教師の援助の在り方の研究を深める。

イ　「幼児期における道徳性」という観点から，講演や演劇等（人形劇，動物飼育員の講話）を実施し，幼児と保護者が共に，道徳性について幅広く考える機会をもつ。

ウ　保護者の道徳意識を把握し，今後の道徳教育の方向性を見極めるために，３回の保護者へのアンケートをとる。アンケート結果を公表し，回を重ねることで，具体的な幼児の「道徳性の芽生え」についての啓発に努める。

エ　研究発表会　12月５日（芦屋市立精道幼稚園）

２年間の研究の成果と幼児の育ちを問うことをねらいとして，公開保育・研究経過報告・講演を行う（演題「幼児期からの道徳教育」大阪教育大学教授　藤永　芳純先生）

5　研究の成果及び今後の課題

①　研究成果

ア　ペープサートや人形劇などを通して，道徳性の芽生えを培う活動を積極的に取り入れることで，幼児によいことや悪いことを感じる機会をつくることができた。このことは，幼児自身が自分で考えたり，友達の考えを聞く中で，考えたりする力が育ってきている。また，教材研究，教師の指導力向上につながった。

イ　日々の保育の中で，年長児と年少児とのかかわり，教育ボランティア，高齢者，地域の人等との触れ合う機会を意図的に計画したことが，幼児が人とかかわることの楽しさや人の役に立つことの喜びにつながり，園内だけでは得られない思いやりや，優しさ，相手を気遣う心などが育っていった。

ウ　幼児が身近な動物や植物に親しみをもって触れられる環境を整えたことで，幼児の生活の幅が広がり，遊びへの意欲が高まっていった。そして，幼児の自信や安定感へとつながっていった。

エ　保護者にアンケートを実施し，研究の内容や過程を知らせ，共に“道徳性”について考え合うことで，保護者の幼児期の教育に対する理解も深まっていった。19年度末には，１年間の道徳性の観点からみた幼児一人一人の育ちを保護者に文章で伝えたことで，幼児の育ちを共に喜び合い，連携を深めることができた。

オ　講師の先生から示唆をうけ，幼児と日々向き合う教師の生きかたを省みる機会を多くもつことが出来，幼児の規範意識を高める教師としての在り方や，人としての「美しい生きかた」を心がける大切さを学んだ。

②　今後の課題

ア　同年齢のクラスに限らず，年少児と年長児が，共に遊んだりかかわったりできるような機会や環境を継続的に計画し，思いやりの気持ちや人とかかわる力を育てていけるような保育を心掛けていく。

イ　自然に触れて，その不思議さや面白さ，美しさ，動植物を思いやる気持ちや命の尊さを感じる経験が十分にできるように，意図的な環境設定や保育計画を工夫していく。

ウ　幼児期に道徳性の芽生えが培われていくためには，保護者の意識を高めていくことが必要である。園だよりや学級通信，保護者会など，具体的な事柄を通して，保護者に伝えていくことを心掛け，保護者と幼児の育ちを喜び合いながら，今後も家庭との連携を図っていく。

大分県豊後高田市

1　研究テーマ及び研究の観点

⑴　道徳性の芽生えを培う活動を通して幼児の豊かな心の成長を目指す

～人とのかかわりを通して，
心と心が通い合う子どもの姿を求めて～

⑵　研究の観点

・地域の人（老人クラブ，福祉施設の高齢者，交通安全協会，未就園児，小学生等）とのかかわりを通し，思いやりのある豊かな心を育成する。

・友だちとのかかわりの中で，幼児の葛藤体験などの事例研修を行い，効果的な援助や環境構成の在り方等，教師の指導力の向上に努める。

・家庭・地域・幼稚園の連携を密にし，社会生活でのルールを守る態度を育成する。

2　地域の概要

・市内には２つの公立幼稚園と１つの私立幼稚園がある。また，保育所については公立の保育所が２所，私立の保育所が５所ある。

・子どもを取り巻く社会環境は大きく変化し，過疎化，少子化，核家族化，共働きなどの傾向が進み，子どもの成長発達に影響をおよぼしている。そこで，子どもたちが地域のさまざまな人とかかわりあう中で，その人々からあたたかい愛情を受け，自らも心を豊かにする楽しさ喜びを実感させる実践が大切だと捉え，取組を進めた。

3　研究協力機関

夢いろ幼稚園，真玉幼稚園，河内小学校，真玉小学校

⑴　上記以外の研究協力機関　幼稚園教育を考える調査

研究実行委員会

構成　豊後高田市教育長，同学校教育長，同学務係長，同指導主事，夢いろ幼稚園長，真玉幼稚園園長，教振事務局長，教振小学校道徳部会長，夢いろ幼稚園副園長，真玉幼稚園副園長，夢いろ幼稚園 PTA 会長，真玉幼稚園 PTA 会長

4　研究の内容及び方法

①　幼児の豊かな心の実現に向けての家庭・地域との連携の在り方を探る。

・保護者や地域住民に対して，園だより，幼稚園公開日等を通して，活動の様子や取組について知らせたり，定期的に保護者会を実施し，意見交換を設定することで，園・保護者・地域が連携して幼児の豊かな心の育成に努める。

・地域連絡会に保護者代表，地域の小学校の代表に参加してもらい，園での子どもたちの様子を中心に実態を出し合い，意見交換をすることを通して，よりよい研究の方向性について協議する。

②　地域，高齢者，未就園児，小学生とのふれあい活動を通して幼児の心の育ちを探る。

・地域の行事に積極的に参加し，幼児が練習してきた「ひょっとこ踊り」等を披露したり，ふれあい活動を通して交流を図ったりすることで幼児の健やかな心の育成を図る。

・未就園児と一緒に遊んだり，交流する場を通して思いやりの心を育む。

・小学校低学年と合同で「うみたまご」見学に行ったり，小学校見学，小学生とのふれあい交流体験等の異年齢交流を通して，やさしく接してもらえることの心地よさや，自分の成長を実感できる場を設定する。

・祖父母参観日や祖父母とのふれあい体験活動を実施し，一緒に活動することの楽しさやほめられることの喜び，人のあたたかさ等を実感させる。

・福祉施設への訪問を通して，相手を大切にする心や思いやりの心を育む。

③　幼稚園での友だちとのかかわりの場における通い合いの心を明らかにする。

・幼児の実態を把握し，ねらいを明確にしたさまざまなふれあいの場や環境を構成し，子どもたち一人ひとりの様子を細かく観察することを通して，場や環境の有効性を検証するとともに，活動について評価を行う。

・「うみたまご」見学や料理教室，小学生との交流等の共通体験や園での様々な遊びを通して，お互いの思いを共有し，心の通い合う姿を探るとともに，教師の援助の在り方について研究する。

・子どもの活動の姿がどのように変容したか，どんな思いでそうしたのかを生活の様子から明らかにするための細かい記録綴りを行う。

④　講演会や研修視察を行い，教師の指導力の向上を図る。

・幼稚園における道徳性の芽生えを培う教育のあり方を，講師を招聘して研修する。

・道徳性の芽生えを培う活動を実践している先進園を視察し，自園の実践に活かす。

・日々の保育実践において，育てたい力を明確にし，そのための場の工夫や援助の在り方について，職員研修等で振り返りを行うとともに，活動後の実践に活かす。

・２園合同担当者会を実施し，お互いの園での実践を交流することを通して，自園での実践を見直す。

・研究テーマにある「心と心が通い合う姿」とはどんな姿なのかを具体的な子どもの姿とつなげて明らかにしていきながら，２園で共通理解のもとに研究を進める。

5　研究成果及び今後の課題

⑴　研究の成果

・かかわりを深めるための場を多様に設定することで，子ども同士や子どもと他者との効果的なかかわりの在り方を検証することができた。

・定期的に園だよりを発行したり，月に１回の公開保育を実施し，参加を呼びかけることを通して，園での取組を理解していただき，地域の方や保護者が様々な活動に積極的に協力してくれた。

・年間２回の地域連絡会を実施し，その中で保護者代表や小学校代表と一緒に園での取組の様子を説明し，協議することを通して様々な立場から意見交換ができ，研究の推進に役立った。

・クリスマス会において，子どもが抱く道徳性の芽生えをしっかり捉えて，人の温かさや思いやりに気づくような援助ができている。

・同じ相手とじっくりとかかわり合える活動の工夫や，共に過ごす体験を重ねることで，高齢者の方と子どもの間に，心の通い合いができた。

・祖父母参観日や祖父母とのふれあい体験活動を通して，活動の様子をほめられたり，色々な話をしながら，一緒に過ごすことで，あたたかな人とのふれあいについて実感することができた。

・未就園児とのふれあいは，自分より小さい人に対し

て，本能的に持っている心を素直に示し，やさしい心を育むのに効果的であった。

・小学生とのふれあい活動を通して，ふれあう相手を意識して活動する中で親しみを持つことができ，より親しみを高めることができた。特にふれあう相手とペアを作って活動したことが効果的であった。

・友だちとのトラブルでの心情（悲しみ，葛藤，我慢など）にそった共感的援助や，友だちの思いに気づく場を教師が意図的に設定することで，子ども自らが，友だちの思いを聞こうとする姿勢が育ってきた。

・子どもの変容の姿として，活動に対してわからないことや問題に出会ったとき自分から進んで教師や友だちに聞けるようになったり，自分のがんばっている姿をいろんな方々に見てもらいたいという意欲が生じてきた。

・子育てにおいて，家庭や地域との連携がいかに大切かと言うことが，再認識できた。今後もさらに連携を深めていきたい。

・講演会や先進地視察を通して，道徳性の芽生えを培うための場や援助の工夫の在り方や子どもの育ちをみとるための教師の評価の在り方等を学ぶことができ，教師の指導力の向上につながった。

⑵　今後の課題

・活動を実施していく上で，今後も協力機関（小学校・保育所・地域の団体や施設）との調整や連絡はもちろんのこと効果的な指導ができるよう共通理解を図りながら実施していくことが大切である。

・今年度の幼児の姿から道徳性の芽生えの把握についてわかったこと，その育て方について，さらに明らかにしていきたい。

・未就園児や小学生とのふれあいは，年に数回程度しか実施できなかったので，今後ふれあいの場づくりを増やす必要がある。また，市内広域から園児が通っているため，自分の進学する小学校に興味・関心を持たせるためにも，複数の小学校とのふれあい活動も検討していく必要がある。

・ふれあいの場でより親しみが高まっていけるようなふれあいのさせ方や援助の工夫についても研修を深めていきたい。

・それぞれの活動に対して，ねらいを明確にし，子どもたちにどんな姿が見えたか，どんな力が育ったかを，子どもたちの実態から評価し，今後の活動につなげることが大切である。

・ふれあい活動についてのアンケート結果（地域の方々や保護者等）を来年度の活動に生かし，心が通い合うための適切な援助や工夫の改善を行う。